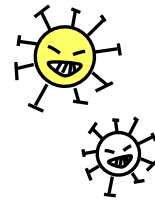
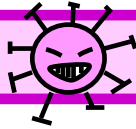


感染症に気をつけよう!

2017年【9月号】



横浜市内の感染症流行状況



感染症	流行状況		説明 <small>【解説付き既刊号】</small> ← <small>クリック</small>
腸管出血性大腸菌感染症	★ 多発	➡ 増加	8月中旬から報告が増えています。例年、気温が高い10月頃まで多く発生します。【'16.9号】
手足口病	🌟 警報	➡ 横ばい	7月中旬に警報レベルの流行になりました。まだ、報告の多い状況が続いています。【'17.7号】
RSウイルス感染症	🌟 流行	➡ 横ばい	例年、冬に流行しますが、今年は早く増加し始め、その後も例年より多い状況です。【'16.10号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症



帰宅時
調理前
調理中
食事前
トイレの後
動物に
触れた後
など...

感染のしかたは？

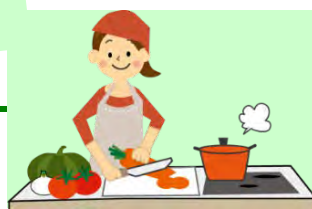
- 病原性大腸菌(O157等)に汚染された物を口にすることが原因です。
- 食品以外に、患者の便で汚れた物品からも感染します。
- 市内でも、家族の間で感染が広がった例が報告されています。



中心部まで75℃1分以上...

家庭での感染予防は？

- 手洗いが大事です。
- 調理では食材をよく洗浄・加熱しましょう。
- トイレも清潔に保ちましょう。



ドアノブなど
手でさわる所は
特にしっかり...



重症になることは？

- 重い合併症の溶血性尿毒症症候群(HUS)も報告されています。
- 乳幼児や高齢者では重症になりやすく、命に係わる場合もあります。
- 下痢の症状が出てしまったら、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早目に受診してください。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】